

平成 14 年度事業報告

2002 年 4 月 1 日～2003 年 3 月 31 日

1. 財団の機関会議

- ① 理事会 第 8 回理事会を 2002 年 6 月 15 日に開催し、平成 13 年度事業報告、決算報告、評議員選出について審議し、議決した。第 9 回理事会を 2003 年 2 月 15 日に開催し、平成 14 年度補正予算、平成 15 年度事業計画、平成 15 年度収支予算について審議し、議決を行った。
- ② 評議員会 第 5 回評議員会を 2002 年 6 月 22 日に開催し、平成 13 年度事業報告、決算報告の承認について審議し、議決した。第 6 回評議員会を 2003 年 3 月 29 日に開催し、平成 14 年度補正予算、平成 15 年度事業計画、平成 15 年度収支予算の承認について審議し、議決を行った。
- ③ 監査 平成 13 年度決算について、山崎博幸監事、村木源二郎監事が 2002 年 6 月 10 日に監査を行った。
- ④ 委員会 組織・財務委員会：2002 年 5 月 24 日、研究・学習委員会：2002 年 6 月 4 日、9 月 30 日、広報・編集委員会：6 月 10 日、資料保存委員会：6 月 15 日、12 月 7 日にそれぞれ開催した。
- ⑤ 事務局会議は、常勤職員による打ち合わせを毎週木曜日の午前 10 時より約 2 時間実施し、活動の企画運営について話し合いを行った。非常勤を含めた全体事務局会議は、毎月第 2 土曜日の午前 10 時から約 2 時間実施した。

2. 財団の活動

I 環境再生活動の推進

(1) 八間川をシンボルとした環境再生活動

八間川調査は、生物・水質・流速・底質等の調査とともに各回ごとにテーマを設定した企画を同時に開催し、年 4 回実施した。調査結果から、八間川で見られる魚類図鑑など教材を製作した。

8 月には、八間川流域住民約 3 千軒を対象にアンケート調査を行い、地域住民の八間川への関心を調べた。これらを基に意見調整の検討会設置を行政へ働きかけた。

10 月には、地域学習の題材になること、地域住民の関心を八間川に寄せることを目的に、「八間川展」を 3 会場で約 2 週間開催した。作品募集には小・中学生、大学生、地域住民等から 10 点の作品が寄せられた。

(2) まちおこし「こだわり衆」の組織

倉敷市公害患者と家族の会会員を対象に、地域の食材(れんこん・ごぼう)を使った「エコクッキング」教室を 3 回開催した。エコクッキング教室開催準備にあたり、れんこんの栽培方法、地域独自の料理方法等について、JA 倉敷南女性部からお話を伺い、情報や資料の提供をいただいた。また、調理指導、栄養指導では水島協同病院栄養科に協力を求めた。

(3) 水島地域再生計画の検討

今後の水島地域再生計画を作成する下準備として、居住福祉についての学習会、公共交通に関する学習会への参加、先進事例の視察等を行った。

II 公害被害に係わる体験や教訓を活かす活動

(1) 公害裁判の資料の保存・教訓を活かす活動

資料の収集、整理、保存方策について、先進事例に学びながら、資料保存委員会を開催し、検討した。あおぞら財団主催の公害資料保存研究会専門委員会及びワーキンググループへ参加した。

(2) 地域の公害体験「語り部」活動

前作に引き続き白井久夫氏((株)創映社、元 NHK ディレクター、映像ジャーナリスト)に記録

映画「MIZUSHIMA」(英語版)の製作を依頼し、2002年6月に完成させた。

(3) コンビナート公害に関する経験の途上国への情報発信

昨年度に引き続き、全国公害患者の会連合会実施の途上国の環境 NGO との交流事業(韓国および台湾)に協力した。8~9月に南アフリカのヨハネスブルグで開催されたサミットに参加し、ホームページ上で逐次日本語による情報を発信した。そのほか、アジアからの視察受け入れ(イオン1%クラブ、JICA)を行った。英語版のホームページは作成することができなかった。

(4) 地球環境市民大学校への協力

環境事業団より委託を受け、岡山県下での「環境 NGO と市民の集い」(環境事業団主催、10月26日)の企画・運営を行った。

III 調査研究の推進

(1) コンビナート周辺環境改善に関する調査研究

① 温暖化防止に関する調査研究

平成14年度も引き続き(財)省エネルギーセンター地域活動支援事業として、昨年度作成した教材「温暖化の危機から地球を守る」を用いた学習会を開催し、参加者からの意見も交えたワークシート編の試作版を作成した。試作版ワークシートと「エコライフチャレンジシート」((有)ひのでやエコライフ研究所へ作成委託)を水島中学校の総合的な学習の時間で使用してもらった。その成果発表の場として報告会を開催し、ワークシートを完成させた。監修は、岡山大学大学院自然科学研究科千葉喬三教授(みずしま財団評議員)にお願いした。

② 倉敷市・資源循環型廃棄物処理施設整備運営事業に関する調査研究

倉敷市がPFI法(民間資金の活用による公共施設の整備等の促進に関する法律)に則って計画を進めるゴミ処理施設の建設に関して、財団は安全性と妥当性の点から意見・要望を行った。

(2) 瀬戸内海の環境再生に関する調査研究

環境事業団地球環境基金の助成事業の3年目として、調査活動を継続するとともに、これまでの調査活動のまとめ、および瀬戸内海の環境回復・保全のための政策提言の作成を行った。本調査研究は、森瀧理事長、磯部理事、白井理事の主導で行われた。

IV 広報・交流活動

(1) 財団広報誌「みずしま財団たより」の発行

財団の活動報告、今後の予定のお知らせ等、情報発信を目的とした広報誌「みずしま財団たより」を発行した。年6回(4、6、8、10、1、3月)、隔月に発行した。

(2) ホームページによる情報発信。

みずしま財団の活動をより広く知ってもらうためホームページを整備した。内容は財団設立の経緯や各種事業の案内等を掲載した。

(3) 財団発行物

年次報告書1冊、環境改善報告書シリーズ3冊、その他報告書1冊、教材1冊、ビデオテープ1本を発行した。

・みずしま財団年次報告書 Vol. 2 2001年4月~2002年3月(2002年7月)

・映画「MIZUSHIMA」(英語版、VHSテープ)(2002年6月)

・ワークシート編「温暖化の危機から地球を守る」(2003年1月)

※(財)省エネルギーセンター地域活動支援事業

・パートナーシップによる環境改善報告書 No. 8

『温暖化の危機から地球を守る』を活用した、温暖化防止、省エネルギー活動に関する環境教

育の実践活動」報告書（2003年1月）

※（財）省エネルギーセンター地域活動支援事業報告書

・パートナーシップによる環境改善報告書 No. 9

「ヨハネスブルグサミット報告書」（2003年3月）

※ 環境事業団地球環境基金部助成事業報告書

・パートナーシップによる環境改善報告書 No. 10

「海底ゴミの実態把握調査を通じた市民意識の啓発活動 報告書」（2003年3月）

※環境事業団地球環境基金部助成事業報告書

・「エコクッキング教室 2002年度開催のまとめ」（2003年3月）

(4) その他の活動

交流活動としては、あおぞら財団、日本環境会議、気候ネットワーク、瀬戸内の環境を守る連絡会、沖縄環境ネットワーク、高梁川流域ネットワーク、（財）おかもやま環境ネットワーク、CASA、国際エメックスセンター、グラウンドワーク三島、倉敷市まちづくりネットワーク等との交流をおこなった。

視察受け入れおよび、講師の協力は、公害研究委員会（in 水島）の受け入れ、医療生協職員研修「環境マップづくり」への協力、倉敷古城池高校環境教育講演会での講演（塩飽）、第9回イーブくらしき環境シンポジウムでの報告（塩飽）、倉敷市地方自治研究集会に参加、ガス化溶融炉についての報告等があった。また、倉敷市地方自治研究集会実行委員会および、社会教育全国集会実行委員会に参加し、企画運営に関わった。

広報活動として、毎月1回第4金曜日のFMくらしき「みずすましの耳」（12:50から10分間）で財団の活動報告、イベントの案内等を放送した。

提言活動としては、岡山県夢づくりモニターに応募、研究員2名が委嘱され、岡山県政に対して、市民からの視点で提言を行った。岡山県環境基本計画見直しにあたっては、公聴会への出席・意見発表ならびに意見提出を行った。

倉敷市まちづくりワークショップへ参加し、その体験をもとに倉敷市の市民参加の制度について検討した。

3. 組織

I 事務局

- ・藤原研究員は、2002年12月16日から2003年3月4日まで体調不良により病欠。
- ・塩飽研究員は、2003年3月27日から5月5日まで体調不良により病欠。

II 賛助会員

- ・ 広く財団の活動を支援していただくための賛助会員の拡大をめざして、たより・報告書等による情報発信の充実を図った。個人会員1口1,000円、団体会員1口10,000円。特典として、財団発行物、みずしま財団たよりの送付、開催イベント等各行事のご案内の送付等。2003年3月31日現在の会員数は、個人会員127人、292口、団体会員14団体、27口。

以上